

アセスメントからオンライン評価まで。
『CureとCare』を両立する摂食嚥下

訪問歯科DX講座

摂食嚥下コース

訪問現場では、食事の様子からの的確にアセスメントし、安全な食支援を導くスキルが求められます。本コースは原因診断から直接・間接訓練までの実践手技に加え、オンラインを活用した遠隔での食事評価など最新DX手法を網羅。単なる機能回復にとどまらず「CureとCare」を両立させ、多職種と連携して患者の生活を支える次世代の即戦力を育成します



01

アセスメントから訓練まで。現場直結の実践スキル

E-learningで基礎を学び、Google Meetで疑問を解消、実習で技術を磨きます。食事観察のアセスメントから主訴別の対応、直接・間接訓練まで、現場ですぐ活かせるノウハウを無駄なく身につける31時間のコースです。

02

「CureとCare」を両立。「人を見る」臨床推論

単なる手技にとどまらず、患者様の生活を見据えた包括的アプローチを学習。BPSモデルを導入し、多職種と「共通言語」で顔の見える関係性を築き、最適なケアを導き出す深い臨床推論力を養うプログラムです

03

オンライン評価×現場の見える化。DXで進化する食支援

オンラインを活用した食事観察や遠隔評価の手法に加え、Google Meet常時接続による多職種リアルタイム連携、GoogleWorkSpace (GWS) での情報共有を習得。確かな手技にDXを掛け合わせチーム全体の質を向上させます。

訪問歯科DX講座 摂食・嚥下コース カリキュラム

摂食嚥下の基本と
食事アセスメント

摂食嚥下の5期総論やよくある障害を理解し、現場で生きる食事観察のアセスメント手法を学ぶ

主訴・所見別の原因診断と
臨床推論

基礎の復習を行いながら、患者の主訴や所見に基づき、的確な原因診断を導き出すための臨床推論を習得する

主訴・所見別の対応とEBM

食事観察のアセスメントを振り返り、EBM（根拠に基づく医療）のステップを踏まえた具体的な対応方法を学ぶ

多職種連携と
摂食嚥下アプローチ（実習）

フィールドワークを通じて実践的な摂食嚥下実習を行い、多職種との「共通言語」や「顔の見える関係性」を用いた連携を学ぶ

BPSモデルを用いた対応の応用

BPS（生物心理社会）モデルの考え方を導入し、患者の生活背景なども考慮した包括的な主訴・所見別の対応を深める

オンライン食事観察

現場に立ち会うのではなく、オンライン会議システムを用いた施設/在宅での食事観察の連携の具体的な方法について学び、効率的な食支援ができるようになる

講座料金 **420,000**円(税別)

義歯コース、全身疾患コースもご用意しております。
人材開発支援助成金の活用も可能です。

お気軽にお問い合わせください